

報道関係各位

2025 年 11 月 6 日

## SUPER FORMULA NEXT50 2025 年 第 3 回カーボンニュートラル開発テスト実施報告

全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下「SUPER FORMULA」)を開催する株式会社日本レースプロモーション(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：上野 禎久、以下「JRP」)は 11 月 5 日(水)、今シーズンの第 3 回目となるカーボンニュートラル開発テスト(以下 CN 開発テスト)を、宮城県スポーツランド SUGO で行いました。



＜開発テスト車両 通称「白寅」(山本尚貴選手)＞      ＜開発テスト車両 通称「赤寅」(国本雄資選手)＞

JRP では 2022 年から「SUPER FORMULA NEXT50」プロジェクトを通じ、「カーボンニュートラルへの対応」と「エンターテインメント性の向上」の 2 つをテーマに、メーカーの垣根を越えて CN 開発テストを繰り返し実施しています。

2023 年に導入した現行マシン『SF23』は、カーボンニュートラルの対応として、原材料ならびに製造過程での CO2 排出量を約 75%抑制した「Bcomp 社」のバイオコンポジット素材や、今季より天然由来の配合剤やリサイクル素材等、再生可能原料の比率を 45%まで向上させた横浜ゴムの「カーボンニュートラル対応レーシングタイヤ」を採用しており、9 月に実施した第 2 回 CN 開発テストからは、国内初となる国産のセルロースエタノール混合ガソリン(低炭素ガソリン：E10 燃料)のテストも始まりました。この燃料は既報の通り(ご参照: <https://superformula.net/sf3/release/22933/>)、復興に取り組む福島県大熊町を拠点にバイオエタノール燃料の製造技術を研究する次世代グリーン CO2 燃料技術組合(「raBit」)と、セルロースエタノールを用いた低炭素ガソリンの品質設計と供給を担う ENEOS 株式会社が製造・供給するもので、今回の第 3 回 CN 開発テストでも使用しました。

今回も White Tiger SF23（通称「白寅」）と Red Tiger SF23（「赤寅」）が参加し、「赤寅」は 2016 年のシリーズチャンピオン国本雄資選手、「白寅」は 2013 年、18 年、20 年と 3 度のシリーズチャンピオンを獲得した山本尚貴選手が引き続き開発ドライバーを担当しました。



<カーボンニュートラル対応レーシングタイヤ>

今回のテストは、ウェットコンディション用のレインタイヤの開発が主目的で、快晴となったサーキットには朝から散水車による散水が行われ、数種類の異なるコンパウンドやケーシング（タイヤの内部構造）の組み合わせによるテスト、また、より排水性を高めた表面パターンのタイヤを装着してのテストとなりました。

午前 2 時間半、午後 2 時間半、計 5 時間のテストでは 1 周 3.5865km のレーシングコースを「赤寅」の国本雄資が 111 周回、「白寅」の山本尚貴が 112 周回を走行し、データの収集・評価を行いました。

JRP では CN 開発テストを通して得られた知見を活かし、今後もカーボンニュートラルとエンターテインメント性の両立・向上に向けた活動を継続してまいります。

そしていよいよ今月 21 日(金)～23 日(日)には、第 10 戦・第 11 戦・第 12 戦 第 **24 回** JAF 鈴鹿グランプリが三重県鈴鹿サーキットで開催されます。今季の SUPER FORMULA 年間王者が決まる最終大会に、是非ご期待下さい。

2025 年 第 3 回カーボンニュートラル開発テストメディアフォト

<https://old.superformula.net/app/user/media.php>

パスワード：sf2025



<開発テストセッション後の報告会の様子>

## 開発ドライバー 国本雄資選手のコメント



「現行のレインタイヤと、新しいパターンや構造、コンパウンドをいくつか持ち込んでのテストになりましたが、課題がしっかり見えましたし改善の方向性も見えたので、来年の開発テストに向けて準備してより良いタイヤにしていきたいと考えています。最近雨の量によってはなかなかレースが難しくなってきていますので、雨でも安全にしっかりとファンの皆さんに楽しんで頂けるように、今後も開発していきたいと思います。」



開発ドライバー 山本尚貴選手のコメント



「レギュラードライバーそれぞれが抱えている課題を解決するためのテストという意味合いもあるので、数種類ものタイヤを使っただけのテストになりましたが、やはり良いところ、悪いところありましたので、今後に向けて更にブラッシュアップが必要ですが、より安全でパフォーマンスの高いタイヤを早く供給できるようにしたいと考えています。もちろんウオームアップ性能の向上や、排水性の向上などレインタイヤの評価には様々なテーマがありますが、一年通して安定したパフォーマンスが出せるタイヤを目指して総合的に評価しています。

来年も「白寅」に乗って、このメンバーで開発テストができれば光栄ですし嬉しいです。タイヤに限らず新しいものを色々試していくテストですので新鮮ですし、ドライバーとしてのキャパシティも増えるので個人的にはありがたい作業だと思っています」

本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-28-5 axle 御茶ノ水 3F-304

(株)日本レースプロモーション 広報事務局：上坂・上田

Email: [media@superformula.net](mailto:media@superformula.net)